

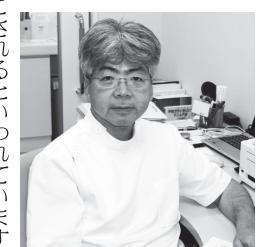
女性のためのヘルスケア

みらいウイメンズクリニック

みらい通信

(連載 第7回)

院長 茂原 弘光



産婦人科と禁煙外来、普通ではあまり関係のないような組み合わせと考えられるかもしれません。しかし妊娠中のお母さんの喫煙あるいはお父さんや一緒に住んでいる家族の喫煙は、胎児や新生児の発育に大きく影響するとも言われておりますので、注意が必要です。

喫煙が胎児に及ぼすさまざまなリスク

たばこにはニコチンやタール、一酸化炭素、窒素酸化物をはじめ多くの有害物質が含まれていることはよく知られています。

たばこを吸う女性の多くは妊娠が分かると赤ちゃんへの影響を考え、スマートに禁煙ができる方がほとんどです。しかし、最近では妊娠が一番多い年代の喫煙率が急上昇しており、平成22年度では、20歳台15%、30歳台16%と言われ、中には妊娠中のたばこが止められない妊婦さんもいらっしゃいます。またご主人や一緒に住んでいる家族が喫煙している場合は、妊婦の

受動喫煙による赤ちゃんへの影響が心配されます。

厚生労働省の「最新たばこ情報」によると、喫煙により不妊の影響が高まると言われています。たばこを吸っている妊婦は、吸わない妊婦より1・5倍ほど流早産のリスクが高まり、吸う本数が増えるほど早産しやすくなります。またたばこを吸っている妊婦は、1・3倍ほど周産期死亡が高まり、2500g以下の低出生体重児が生まれる頻度もたばこを吸つ妊婦では2倍ほど高くなります。

この影響はたばこ煙中のニコチンと一酸化炭素によって胎児と胎盤系が低酸素状態になります。そのため、胎児の発育障害が引き起こされるといわれています。

生まれてくる新しい命のために禁煙を

みらいウイメンズクリニックでは通院されるお母さんだけでなく、お父さんやおじいちゃん、おばあちゃんを含め一緒に住んでいるご家族の方々を対象に禁煙外来を広く開放しております。禁煙を達成するためには「動機」が必要です。生まれてくる新しい命の健やかな発育を願う気持ちは、とても大きな動機となり得ると私たちは考え、禁煙外来を行っております。新しい年となりました、新しいご家族のために禁煙に挑戦してみてはいかがでしょうか。

